

科目		有機反応機構論 (Organic Reaction Mechanism)	
担当教員		小泉 拓也 准教授	
対象学年等		応用化学専攻・1年・前期・選択・2単位	
学習・教育目標		A4-AC1(100%)	JABEE基準1(1) (d)1.(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針		有機化学を理解する上で有機反応機構の習得は必要不可欠である。本講義では基礎的な有機反応機構(有機電子論・溶媒効果・隣接基関与・直線自由エネルギー関係(Hammett 則)・立体電子効果・ペリ環状反応など)について述べる。	
		到達目標	達成度
		到達目標毎の評価方法と基準	
1	【A4-AC1】有機電子論の概念に基づいて反応の選択性、特異性を説明することができる。		有機電子論の概念に基づいて反応の選択性、特異性を化学反応式、文章を用いて説明することができるかを中間試験で評価する。
2	【A4-AC1】隣接基関与の概念を理解し、有機反応においてどのような役割を果たすかを説明することができる。		隣接基関与の概念を理解し、有機反応においてどのような役割を果たすかを化学反応式、文章を用いて説明することができるかを中間試験で評価する。
3	【A4-AC1】直線自由エネルギー関係(Hammett 則)の概念を理解し、有機反応機構論においてどのような意味を持つかを説明することができる。		直線自由エネルギー関係(Hammett 則)の概念を理解し、有機反応機構論においてどのような意味を持つかを化学反応式、文章を用いて説明することができるかを定期試験で評価する。
4	【A4-AC1】立体電子効果の概念に基づいて反応の選択性、特異性を説明することができる。		立体電子効果の概念に基づいて反応の選択性、特異性を化学反応式、文章を用いて説明することができるかを中間・定期試験で評価する。
5	【A4-AC1】Woodward-Hoffmann 則、フロンティア軌道論の概念を理解し、軌道の対称性に支配される反応であるペリ環状反応がどのように進行するかを説明することができる。		Woodward-Hoffmann 則、フロンティア軌道論の概念を理解し、軌道の対称性に支配される反応であるペリ環状反応を化学式、文章で説明できるかを定期試験で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価		成績は、試験100% として評価する。なお試験成績は中間試験、定期試験の平均点とする。100点満点中60点以上を合格とする。	
テキスト		プリント	
参考書		「有機反応論」加納 航治 著(三共出版) 「有機反応の化学」花房 昭静 著(大日本図書) 「構造有機化学 有機化学を新しく理解するためのエッセンス」齋藤 勝裕 著(三共出版) 「立体電子効果 三次元の有機電子論」A. J. カービー 著. 鈴木 啓介 訳(化学同人) 「ペリ環状反応 第三の有機反応機構」I. フレミング 著. 鈴木 啓介. 千田 憲孝 訳	
関連科目		C2 有機化学 I, C3 有機化学 II, C4 有機合成化学, C5 応用有機化学 I	
履修上の注意事項		有機化学の基礎知識を前提とするので、上記の科目で学んだ内容を十分学習、理解した上で履修することが望ましい。	

